

戦争をしない

平和な時代を願って

第2次世界大戦終戦から今年で74年。毎年8月の終戦記念日に合わせて広報誌では戦争特集を掲載しています。今回は、香我美町の文芸サークル「のぞみ会」(現在は閉会のメンバー)の体験談を、戦時中の様子を記録した文集から抜粋して紹介します。

平成から令和の時代にうつっても「平和な時代」が続いていくことを強く願っています。

勤労奉仕で月見山に
防空壕を掘りに行った



船中で聞いた玉音放送

大東亜戦争も昭和20年に入ると、何となく敗色が濃くなり、不安な日々であった。7月4日に高知空襲があり、翌朝高知の空が煙でくゆるのを遠く見ながら、勤労奉仕で防空壕を掘りに行った。その2、3日後に突如として艦砲射撃があるので、幼児老人は避難するようにと伝わってきて、私は1歳の長女を背負い、月見山の下の月明かりの道をぞろぞろと人の群れに続いて北へ向かった。辻まで送ってきた姑が、今生の別れのごとく、長女



の顔を覗き込み撫でていた。それから実家がある九州の宮崎県に帰ることに決め、8月15日の朝、しつかり子を背負い、家を出た。高松に着くまで何事も無く、宇高連絡船に乗り、くつろいでいると一室に集まるようにとアナウンスがあり、しばらくして聞こえてきたのは、玉音放送であった。船客一同しんとして聞いた。その後、少しざわめいた。

ここで引き返せば良かったのか。ここから宮崎までの長い行程、大きな困難が待ち伏せていること。広島に原爆が落ちたことの発表はなく、鉄道は寸断、橋は爆破、敗戦の混乱、知る由もない。辿り着いた疎開先の実家は灯火管制の黒い布も外され、裸電球が明るく灯り、両親が驚いて迎えてくれた。

この過酷な旅で一番衝撃を受けたのは広島からいくつめかの駅の構内で死体が30体ぐらい、上体にこもが掛けられ、ゲートルを巻いた脚が整然と並んでいた光景。毎年8月15日終戦記念日、私はまずこの人たちを偲び、黙祷を捧げる。そして船中で聞いた玉音放送を思い出す。74年が過ぎ、戦争は2度としてはいけなく、強く若い人たちに伝えたい。そしてこれからも平和な時代が続いていくことを願う。



香南市の戦争遺産を知っていますか？

市教育委員会生涯学習課では、市内の戦争遺跡・戦争体験・戦争を伝えるモノを「香南市戦争遺産」として調査、その内容を広く知ってもらおうと、冊子『香南市の戦争遺産』を昨年に刊行しました。香南市に起こった戦争の事実や戦争の遺構、体験者の多くの証言などを紹介しています。今月号では、近年発見調査された砲台跡・トーチカなどの戦争遺跡について冊子から抜粋して紹介します。

ご希望の方には右記のとおり販売しています。身近な地域の歴史を知ることができます。皆さんぜひ活用ください。

- 販売価格…1冊1,000円
- 販売場所…香南市文化財センター、野市図書館、夜須公民館、赤岡・香我美・吉川支所
- 問い合わせ…市文化財センター ☎54-2296



■出口砲台『五十口径三年式十四糎砲』



夜須町出口にあるこの砲台は、大峰山の標高約100メートルの急斜面にあります。内部に設置された砲台を守るため、鉄筋コンクリート製の分厚い壁と屋根でできています。敵航空機からの爆撃や艦艇からの砲撃を避けるために、海側からは見えないところにあります。

■千切砲台『四十五口径三年式十二糎砲』



夜須町千切にあるこの砲台は、大峰山の比較的低地にあります。山裾斜面の一部を削り取り、平地になった部分の中央に大砲を据えて周囲を鉄筋コンクリート製の防護壁で囲み、前面の壁の開口部が砲門です。

■三宝山3号トーチカ



トーチカとは、コンクリート製の堅固な防御小型要塞です。内部に兵士が隠れて小窓(銃眼)から機関銃などで敵を狙う、敵兵を食い止めることを目的とした構造物です。

香南市の戦争遺跡

- 上岡戦争遺跡群と被爆之碑
- 鬼ヶ岩屋洞窟
- 三宝山戦争遺跡群
- グラマン戦闘機収蔵場所
- 赤岡海岸の機雷爆発事故
- 軍旗奉焼の地
- 月見山戦争遺跡群
- 手結海軍砲台跡
- 震洋隊殉国慰霊塔

戦争を知らない世代が多くなり、当時のことを直接聞くことが困難になりつつある今、「戦争遺産」が戦争を知らない世代にとっても大切になっています。

ヒトから伝えていく時代から、体験をまとめた出版物、映像、そして戦争遺跡などのモノで、戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えていく時代になってきたのではないのでしょうか。